

柏の景気情報（平成20年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成20年2月分）

○ 調査期間 : 平成20年2月21日 ~ 2月25日

○ 調査対象 : 柏市内111事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	111	81	73.0%
建設	19	17	89.5%
製造	26	19	73.1%
卸・小売	43	31	72.1%
サービス	23	14	60.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年2月の調査結果のポイント】

＜業況DIはマイナス40台へ転落、調査以来最低数値＞

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.4(前月水準▲32.9)となり、マイナス幅が▲11.5ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲10.5(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲61.2(同▲34.4)、サービス業▲42.8(同▲33.3)、建設業▲52.9(同▲46.6)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲26.8ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「仕事量は増加。価格の値上がりには比べ工事高の上昇望めず、採算の取れる仕事が少ない」(一般工事業)、「大きな変化はなく、依然厳しい状況」(一般工事業)、「今年に入り、特に新築物件が減少しているため、仕事量の受注が減り、見通しも暗い」(設備工事業)といった厳しい声の他、「雪の影響で行程に乱れがあり、手待ちになる期間と集中してしまう期間があった」(板金工事業)との天候の影響による声が寄せられた。

【製造業】では、「ユニットハウス出荷の建築基準法改正の影響は正常化へ」(建設・建築用金属製品製造業)、「原材料等の価格の高騰はあるものの、内部やユーザーにて吸収で対応」(鉄粉製造業)との改善の声が一部寄せられているが、「景気の見通しが不透明になっている、原材料の高騰が改善される気配はない」(ゴム製造業)、「SUSや非鉄金属の値上がりは一服したが、鉄材料価格の相当な上昇の懸念があるとの情報があった」(機械・同部品製造業)といった原材料価格高騰に関する声が多く寄せられている。また、「今年の冬は例年に比べて、使用電力量が増えている。灯油価格の急騰もあって、暖房の電化が進んでいる」(ロボット製造業)といったコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「客数増及びネットスーパー開店に伴い、若干売上増」(総合スーパー)、「バレンタイン商戦は昨年を上回る結果となり、売上高は若干盛り返した」(各種商品小売業)との声も寄せられているが、「メーカーの数次にわたる値上げが打ち出されている」(塗料卸売業)といった仕入コスト上昇の声や、「各商業施設への分散化が続いている」(百貨店)、「果実・野菜全般に売行き不振」(青果卸売業)、「催事の成否により、かなり月度の売上が変化する。プロパー売上は厳しい」(眼鏡小売業)との厳しい声が多く寄せられている。また、「新学期用品は複数の店舗と比較して、購入に慎重である」(学生衣料)といった声や、「従業員は不足でも過剰でもないが、質が不適正」(食品スーパー)といった人材不足の声の他、「古紙含有率表示の乖離問題で、ファイル等の製造品まで飛び火しており、業界はどこに落ち着くのか不明である」(文房具小売業)といった古紙配合率問題のコメントも寄せられている。

【サービス業】は、「スポーツ団体の宿泊あり。宴会・会議前年並み」(ホテル)といった声の他、「仕入単価が上昇」(獣医業)との声や、「宴会(予約)の減少と客数減少があり、過去最低の売上。対策として、ビール等の値上げ、メニューの見直しを含め「薄利多売」からの転換の時期と考えている」(居酒屋)といった厳しい声が寄せられている。

○仕入コストの上昇

「原材料等の価格の高騰はあるものの、内部やユーザーにて吸収で対応」との声も寄せられているが、各業種から「原材料の価格が上昇の一途。民間・公共を問わず、見積もり金額が下り、受注は困難」、「原油価格高騰により、LPガスも高値が続く、2月価格がピークとなっている。仕入価格のアップ分が全て小売価格に転嫁しきれていないため、経営を圧迫している」、「包装資材等に原油価格高騰の影響が出始め値上がりしている。ガソリン代の値上げも配達業務に影響が出てきた」といった原材料・原油価格高騰の影響の声が多く寄せられた。また、「食品原材料の高騰が大きな問題。より付加価値をつける大きな工夫が求められる」といった課題の声も寄せられた。

○食品問題

卸小売業からは「中国野菜、冷凍食品については、国内餃子及び手作り餃子に人気シフトしています」(総合スーパー)といった声や、「昨今の原油高、食の安全・安心の中で、中国餃子問題が発生し、先行き不安、購買意欲の減退等の影響によって取扱いが減少」(食料卸売)といった食品問題の影響の声が寄せられた。また、「食の安全がペットフードにも法案化され、3月国会に提出される」(獣医業)といったコメントも寄せられており、各業界を揺るがしている。

○天候の影響

「冬物は寒波の影響でほぼ一掃」(学生衣料)との好調の声の一方、「今月は寒さと雪の影響を受けました」(食料卸売)、「週末の天候不順や、気温の低い日が続く、春物を中心に売上は良くない」(各種商品小売業)といった悪影響の声が多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲20.8	▲21.4	▲5.8	▲40.7	±0.0
10月	▲22.5	▲15.3	▲5.5	▲40.7	▲15.3
11月	▲31.7	▲23.5	▲23.8	▲40.7	▲35.2
12月	▲27.8	▲35.7	±0.0	▲40.0	▲31.2
1月	▲32.9	▲46.6	▲20.0	▲34.4	▲33.3
2月	▲44.4	▲52.9	▲10.5	▲61.2	▲42.8
見通し	▲29.6	▲29.4	▲5.2	▲41.9	▲35.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 29.6	▲ 8.6	▲ 54.3	▲ 23.4	▲ 60.4	▲ 54.3	△ 12.3	△ 13.5
建設	▲ 41.1	▲ 47.0	▲ 64.7	▲ 41.1	▲ 76.4	▲ 70.5	△ 5.8	▲ 5.8
製造	±0.0	△ 31.5	▲ 31.5	△ 5.2	▲ 52.6	△ 2.0	△ 21.0	△ 21.0
卸・小売	▲ 29.0	▲ 9.6	▲ 58.0	▲ 32.2	▲ 54.8	▲ 51.6	▲ 3.2	△ 3.2
サービス	▲ 57.1	▲ 14.2	▲ 64.2	▲ 21.4	▲ 64.2	▲ 71.4	△ 42.8	△ 50.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 44.4	▲ 29.6	▲ 24.6	▲ 11.1
建設	▲ 52.9	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 5.8
製造	▲ 10.5	▲ 5.2	▲ 5.2	±0.0
卸・小売	▲ 61.2	▲ 41.9	▲ 22.5	▲ 12.9
サービス	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 57.1	▲ 28.5

【平成20年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.4(前月水準▲32.9)となり、マイナス幅が▲11.5ポイント拡大した。

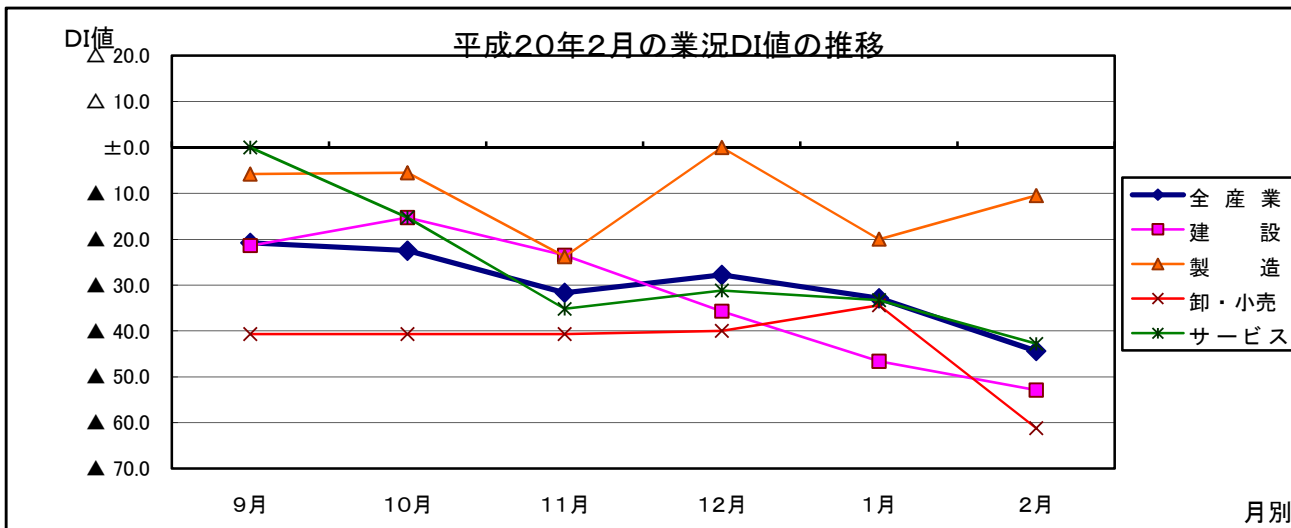
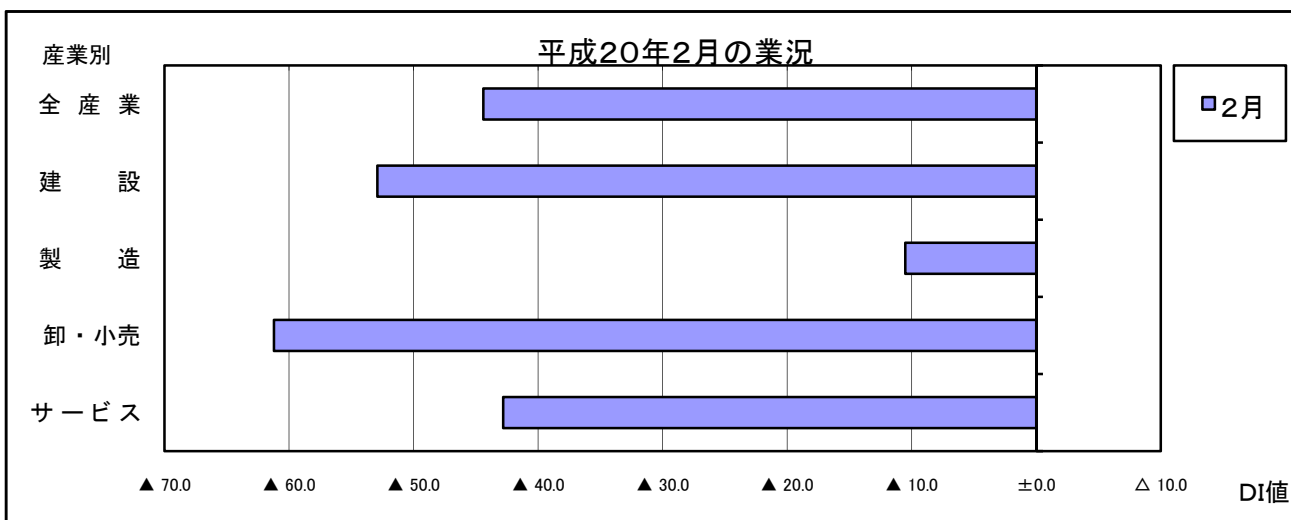
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲10.5(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲61.2(同▲34.4)、サービス業▲42.8(同▲33.3)、建設業▲52.9(同▲46.6)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲26.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.6前月水準▲27.8)となり、マイナス幅が▲1.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲29.4(同▲40.0)、サービス業▲35.7(同▲40.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.2(同△10.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲41.9(同▲41.3)である。

平成20年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲20.8	▲22.5	▲31.7	▲27.8	▲32.9	▲44.4	▲29.6(▲27.8)
建設	▲21.4	▲15.3	▲23.5	▲35.7	▲46.6	▲52.9	▲29.4(▲40.0)
製造	▲5.8	▲5.5	▲23.8	±0.0	▲20.0	▲10.5	▲5.2(△10.0)
卸・小売	▲40.7	▲40.7	▲40.7	▲40.0	▲34.4	▲61.2	▲41.9(▲41.3)
サービス	±0.0	▲15.3	▲35.2	▲31.2	▲33.3	▲42.8	▲35.7(▲40.0)



【平成20年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.6(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が▲4.3ポイント拡大した。

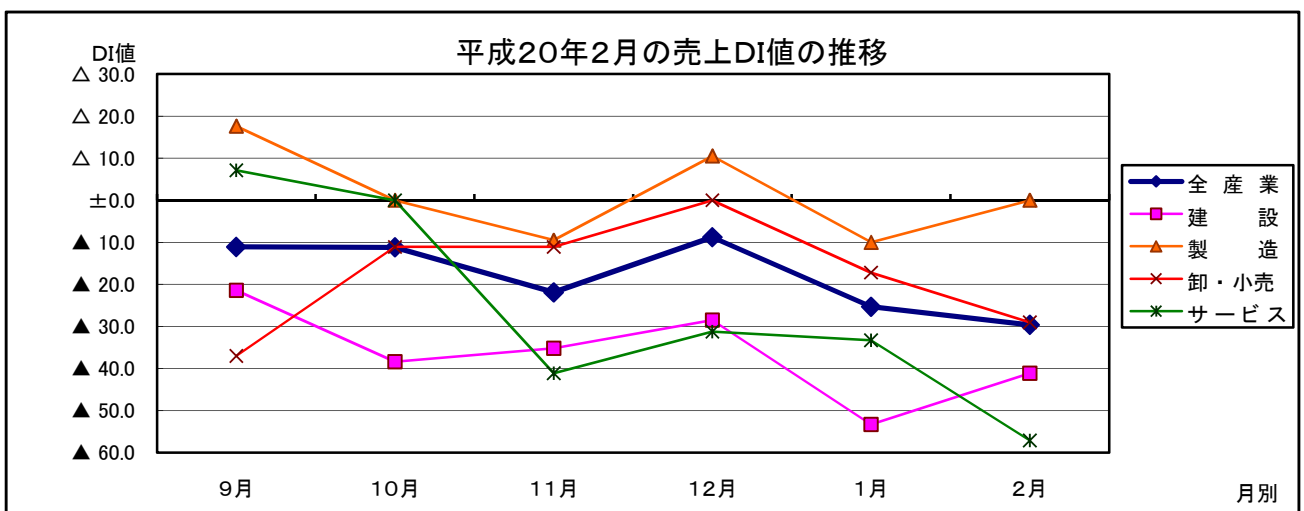
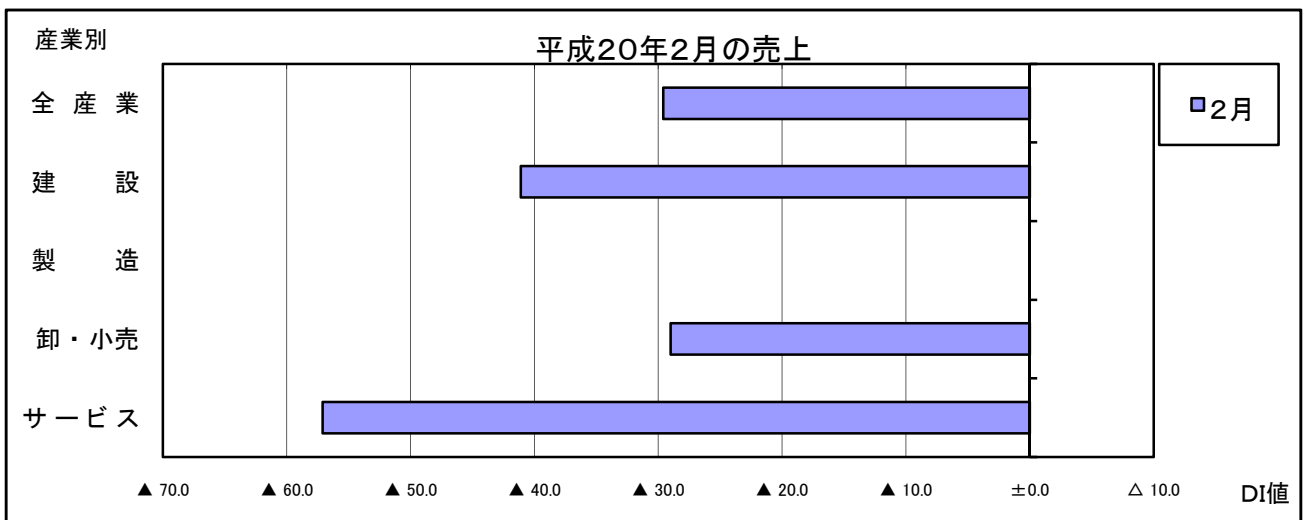
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲41.1(同▲53.3)、製造業±0.0(同▲10.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲57.1(同▲33.3)、卸小売業▲29.0(同▲17.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲23.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.6(前月水準▲6.3)となり、マイナス幅が▲2.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲14.2(同▲26.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△31.5(同△35.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲47.0(同▲40.0)、卸小売業▲9.6(同▲6.8)である。

平成20年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 11.1	▲ 11.2	▲ 21.9	▲ 8.8	▲ 25.3	▲ 29.6	▲ 8.6 (▲ 6.3)
建設	▲ 21.4	▲ 38.4	▲ 35.2	▲ 28.5	▲ 53.3	▲ 41.1	▲ 47.0 (▲ 40.0)
製造	△ 17.6	±0.0	▲ 9.5	△ 10.5	▲ 10.0	±0.0	△ 31.5 (△ 35.0)
卸・小売	▲ 37.0	▲ 11.1	▲ 11.1	±0.0	▲ 17.2	▲ 29.0	▲ 9.6 (▲ 6.8)
サービス	△ 7.1	±0.0	▲ 41.1	▲ 31.2	▲ 33.3	▲ 57.1	▲ 14.2 (▲ 26.6)



【平成20年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲54.3(前月水準▲37.9)となり、マイナス幅が▲16.4ポイント拡大した。

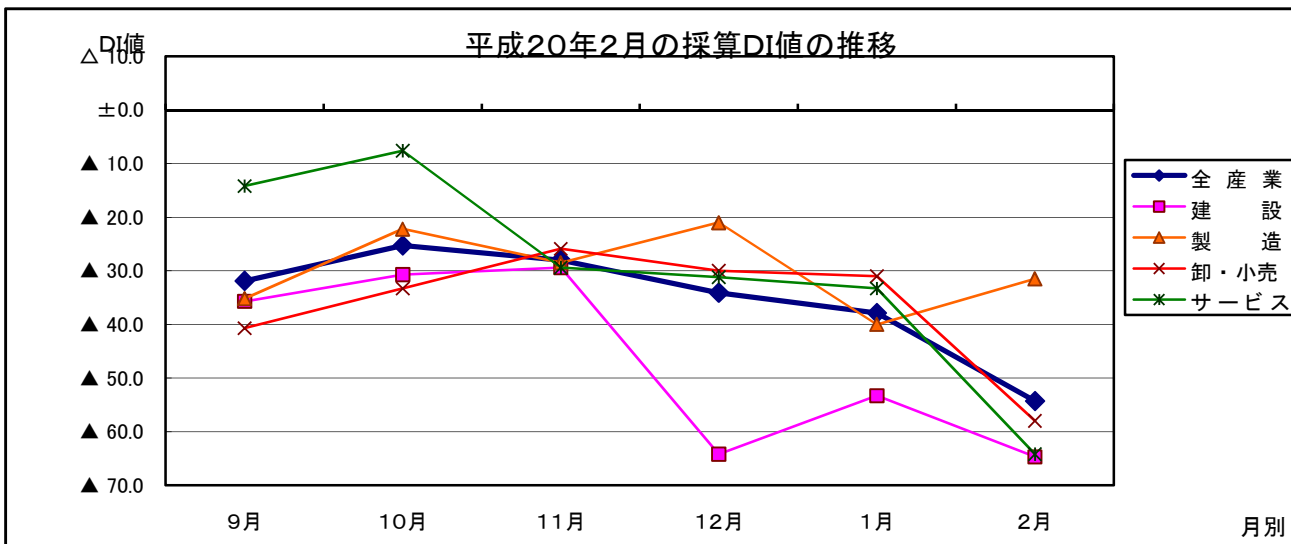
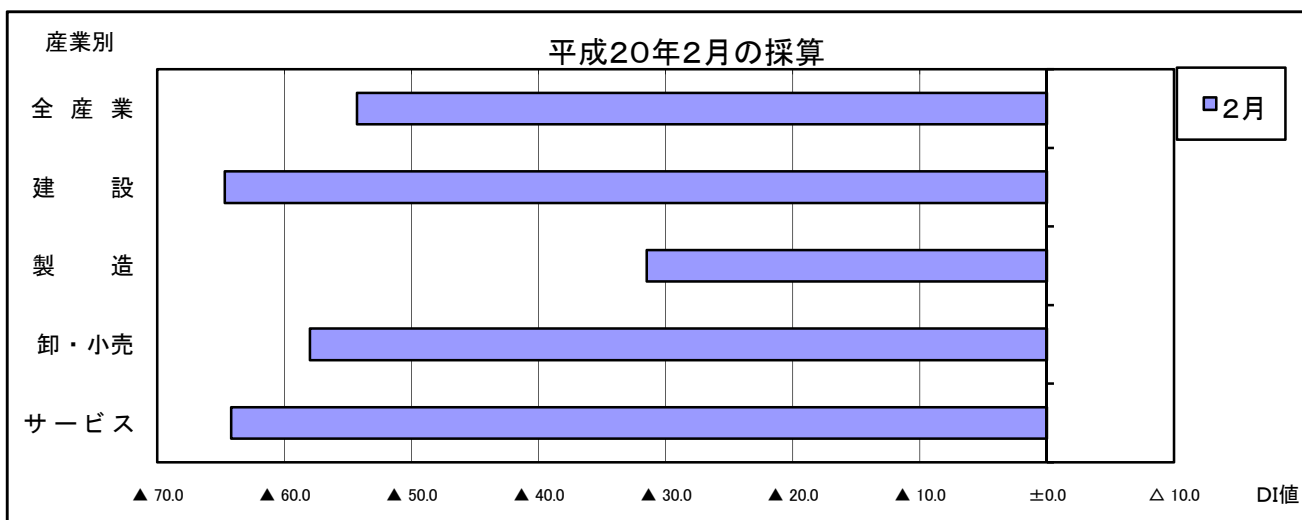
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲31.5(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲64.2(同▲33.3)、卸小売業▲58.0(同▲31.0)、建設業▲64.7(同▲53.3)であり、サービス業はマイナス幅が▲30.9ポイント、卸小売業は▲27.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.4(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が▲3.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△5.2(同▲5.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲21.4(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.2(同▲17.2)、建設業▲41.1(同▲33.3)である。

平成20年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(2月～4月)
全産業	▲31.9	▲25.3	▲28.0	▲34.1	▲37.9	▲54.3	▲23.4(▲20.2)
建設	▲35.7	▲30.7	▲29.4	▲64.2	▲53.3	▲64.7	▲41.1(▲33.3)
製造	▲35.2	▲22.2	▲28.5	▲21.0	▲40.0	▲31.5	△5.2(▲5.0)
卸・小売	▲40.7	▲33.3	▲25.9	▲30.0	▲31.0	▲58.0	▲32.2(▲17.2)
サービス	▲14.2	▲7.6	▲29.4	▲31.2	▲33.3	▲64.2	▲21.4(▲33.3)



【平成20年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.4(前月水準▲62.0)となり、マイナス幅が△1.6ポイント縮小した。

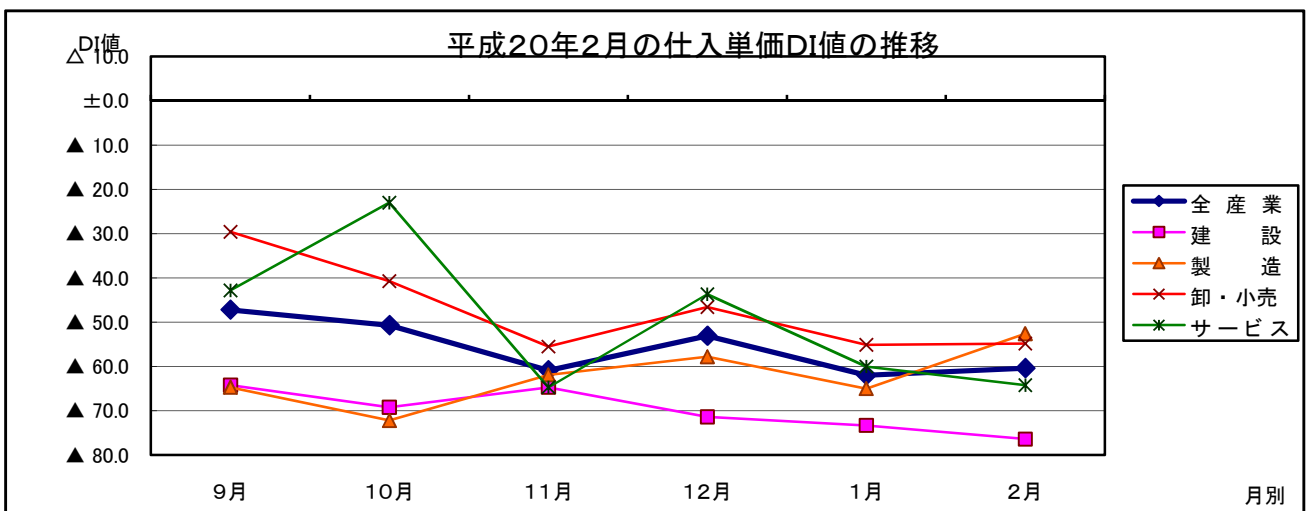
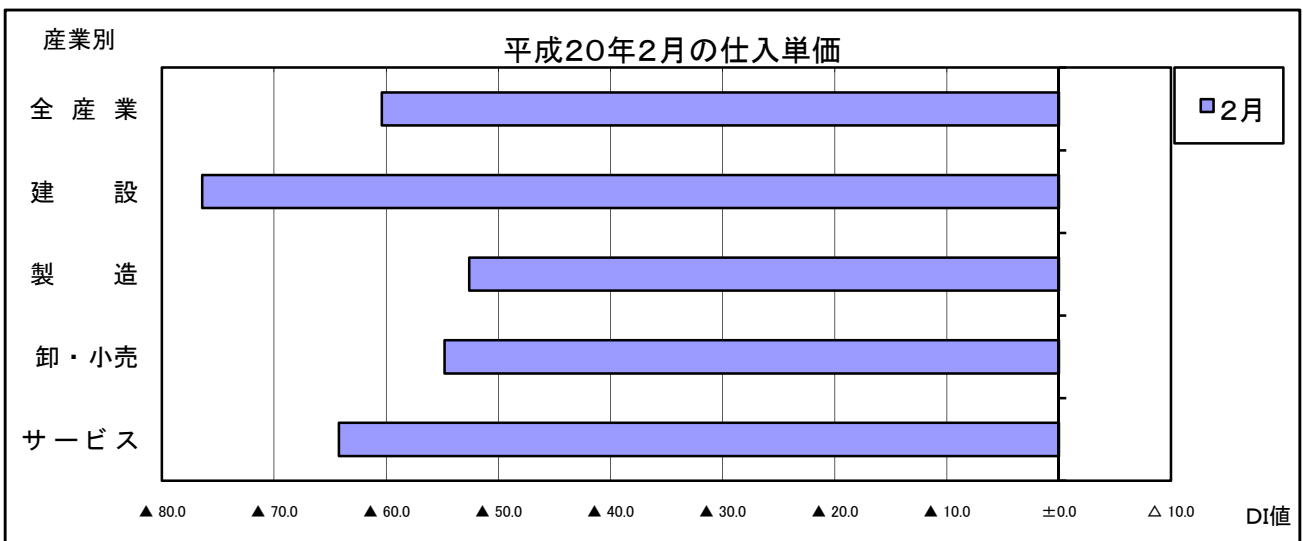
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲52.6(同▲65.0)、卸小売業▲54.8(同▲55.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲64.2(同▲60.0)、建設業▲76.4(同▲73.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲54.3(前月水準▲50.6)となり、マイナス幅が▲3.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△2.0(同▲45.0)であり、△47.0ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲51.6(同▲51.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲70.5(同▲46.6)、サービス業▲71.4(同▲60.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲23.9ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲47.2	▲50.7	▲60.9	▲53.1	▲62.0	▲60.4	▲54.3(▲50.6)
建設	▲64.2	▲69.2	▲64.7	▲71.4	▲73.3	▲76.4	▲70.5(▲46.6)
製造	▲64.7	▲72.2	▲61.9	▲57.8	▲65.0	▲52.6	△2.0(▲45.0)
卸・小売	▲29.6	▲40.7	▲55.5	▲46.6	▲55.1	▲54.8	▲51.6(▲51.7)
サービス	▲42.8	▲23.0	▲64.7	▲43.7	▲60.0	▲64.2	▲71.4(▲60.0)



【平成20年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.3(前月水準△16.4)となり、プラス幅が▲4.1ポイント縮小した。

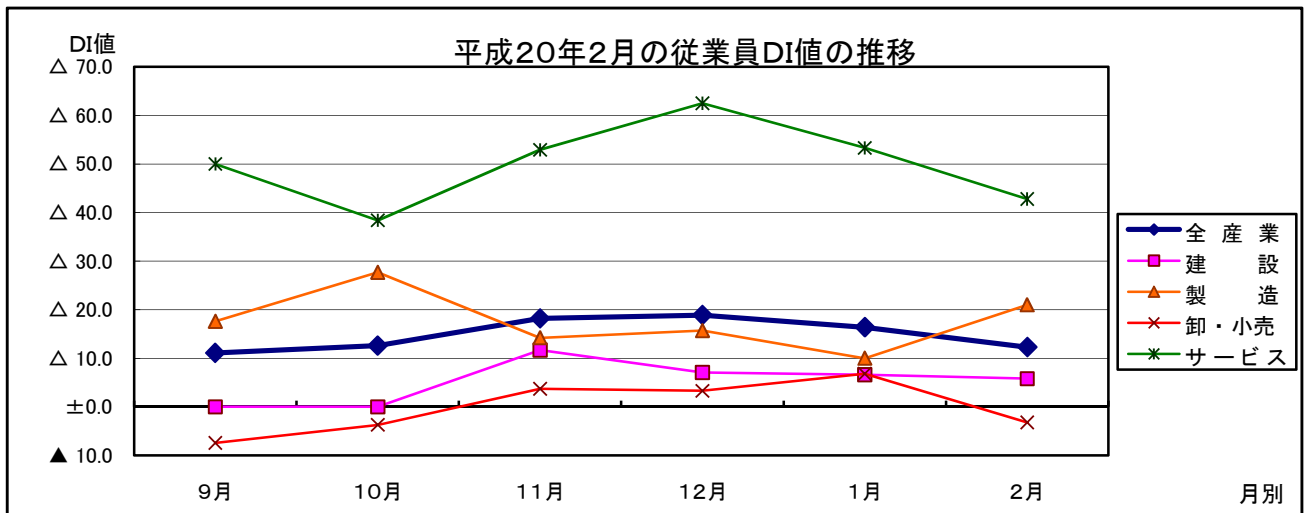
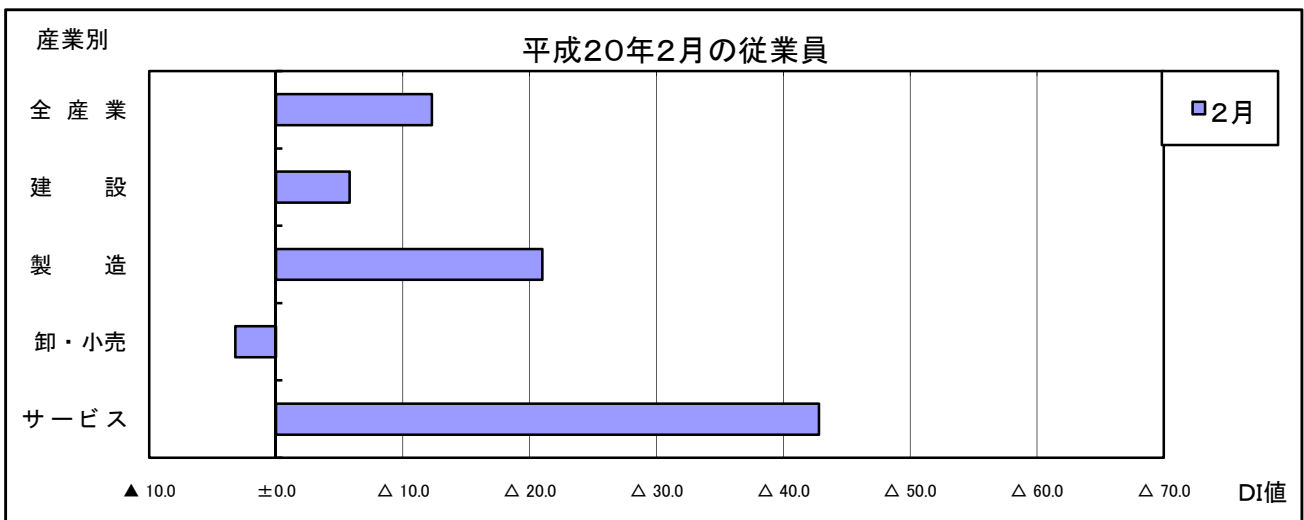
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△21.0(同△10.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△42.8(同△53.3)、建設業△5.8(同△6.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲3.2(同△6.8)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△13.5(前月水準△17.7)となり、プラス幅が▲4.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△50.0(同△40.0)、製造業△21.0(同△15.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は卸小売業△3.2(同△13.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5.8(同△6.6)である。

平成20年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(2月～4月)
全産業	△ 11.1	△ 12.6	△ 18.2	△ 18.9	△ 16.4	△ 12.3	△ 13.5 (△ 17.7)
建設	±0.0	±0.0	△ 11.7	△ 7.1	△ 6.6	△ 5.8	▲ 5.8 (△ 6.6)
製造	△ 17.6	△ 27.7	△ 14.2	△ 15.7	△ 10.0	△ 21.0	△ 21.0 (△ 15.0)
卸・小売	▲ 7.4	▲ 3.7	△ 3.7	△ 3.3	△ 6.8	▲ 3.2	△ 3.2 (△ 13.7)
サービス	△ 50.0	△ 38.4	△ 52.9	△ 62.5	△ 53.3	△ 42.8	△ 50.0 (△ 40.0)



【平成20年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.6(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が▲4.4ポイント拡大した。

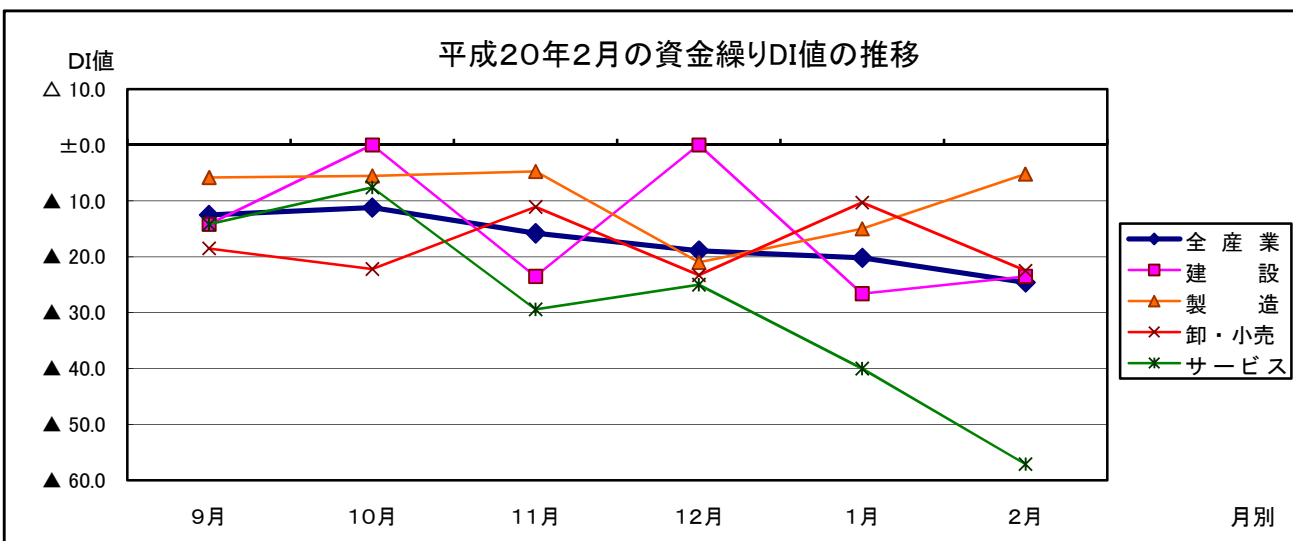
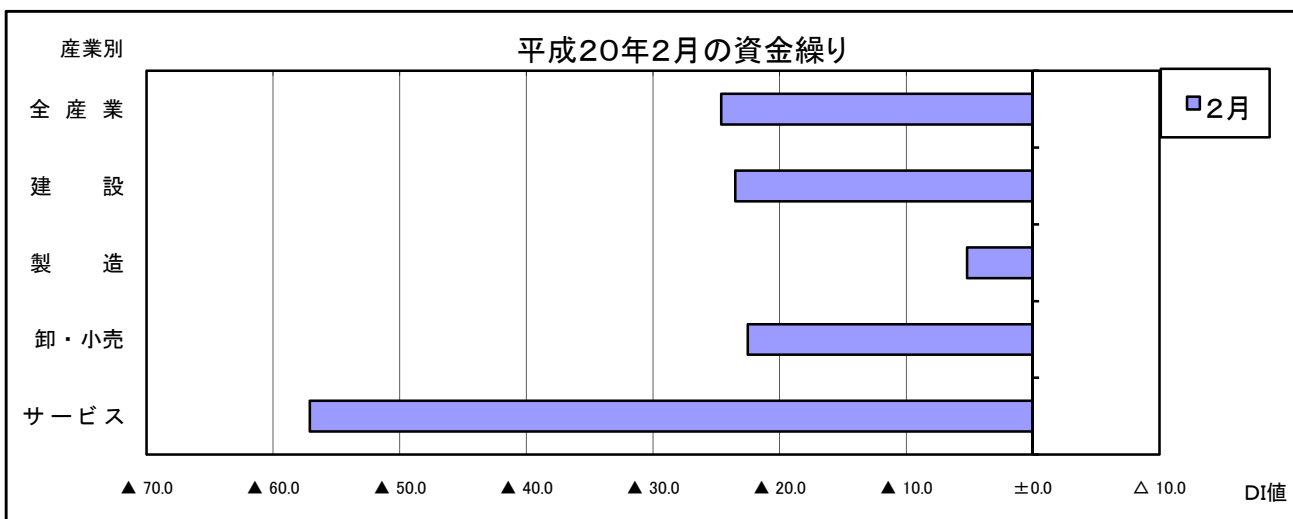
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.2(同▲15.0)、建設業▲23.5(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲57.1(同▲40.0)、卸小売業▲22.5(同▲10.3)であり、

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.1(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が△9.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲15.0)、卸小売業▲12.9(同▲20.6)、建設業▲5.8(同▲13.3)、サービス業▲28.5(同▲33.3)である。

平成20年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲12.5	▲11.2	▲15.8	▲18.9	▲20.2	▲24.6	▲11.1(▲20.2)
建設	▲14.2	±0.0	▲23.5	±0.0	▲26.6	▲23.5	▲5.8(▲13.3)
製造	▲5.8	▲5.5	▲4.7	▲21.0	▲15.0	▲5.2	±0.0(▲15.0)
卸・小売	▲18.5	▲22.2	▲11.1	▲23.3	▲10.3	▲22.5	▲12.9(▲20.6)
サービス	▲14.2	▲7.6	▲29.4	▲25.0	▲40.0	▲57.1	▲28.5(▲33.3)



【平成20年2月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	仕事量は増加。価格の値上がりに比べ工事高の上昇望めず、採算の取れる仕事が少ない。	・仕事量増加 ・仕入上昇 ・不採算	一般土木建築工事業
	大きな変化はなく、依然厳しい状況です。	・厳しい業況	一般土木建築工事業
	雪の影響で行程に乱れがあり、手待ちになる期間と集中してしまう期間が出てしまいました。	・天候の影響	板金・金物工事業
	今年に入り、特に新築物件が減少しているため、仕事量の受注が減り、見通しも暗い。	・新築物件減少 ・受注減少 ・先行き不透明	家庭用機械器具小売業
原材料の価格が上昇の一途。民間・公共を問わず、見積もり金額が下り、受注は困難。	・原材料高騰 ・見積もり下落 ・受注困難	電気工事業	
製造	景気の見通しが不透明になってきているが、原材料の高騰が改善される気配はない。	・先行き不透明 ・原材料高騰	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	原材料等の価格の高騰はあるものの、内部やユーザーにて吸収で対応。ユニットハウス出荷の建築基準法改正の影響は正常化へ。	・原材料高騰 ・建築確認申請問題	その他の鉄鋼業 建設用・建築用金属製品製造業(製缶板金属を含む)
	SUSや非鉄金属の値上がりは一服したが、鉄材料価格の相当な上昇の懸念があるとの情報があった。	・仕入上昇	その他の機械・同部分品製造業
	今年の冬は例年に比べて、特別寒いわけではないが、使用電力量が増えている。灯油価格の急騰もあって、暖房の電化が進んでいるといえる。	・電力使用量増加 ・原油高騰 ・暖房の電化	その他の化学工業
卸小売	今月は寒さと雪の影響を受けました。	・天候の影響	食料・飲料卸売業
	前月と傾向は変わりありません。小売においては、各商業施設への分散化が続いていると思われます。季節商品はセールといっても衣料系は軟調であり、雑貨・身廻り品は堅調のようです。	・顧客の分散化 ・衣料軟調 ・雑貨・身廻り品堅調	百貨店
	2月に入り、客数増及びネットスーパー開店に伴い、若干売上増。中国野菜、冷凍食品については、お客様の買い物の仕方に変化が表れています。国内餃子及び手作り餃子に人気シフトしています。	・客数増 ・ネットショップ ・売上増 ・食品問題	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	従業員は不足でも過剰でもないが、質が不適正。	・人材不足	各種食料品小売業
	食品原材料の高騰がこれから大きな問題になってきています。今後もその傾向が続いて、経営にマイナスの影響を与えるでしょう。より付加価値をつける大きな工夫が求められてきます。	・原材料高騰 ・差別化戦略	各種食料品小売業
	果実・野菜全般に売行き不振。昨今の原油高、食の安全、安心の中で、中国ぎょうざ他、問題が発生し、先行き不安、購買意欲の減退等の影響によって取扱いが減少しています。今後の情勢を見極めて、行動する必要があります。	・売上不振 ・原油高騰 ・食品問題 ・先行き不安 ・購買意欲の減退	食料・飲料卸売業

【平成20年2月の業種別業界内トピックス】

	<p>新学期用品は景気の後退か、明るい話題に欠けるのか、大型ショッピングセンターの影響か？複数の店舗と比較して、購入に慎重である。 冬物は寒波の影響でほぼ一掃。 文具衣料他については、4月から10～15%の値上げ要請あり、仕入は難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期用品 ・天候の影響 ・冬物一掃 ・仕入上昇 	その他の飲食料品小売業
	<p>原油価格高騰により、LPガスも高値が続き、2月価格がピークとなっている状況です。仕入価格のアップ分が全て小売価格に転嫁しきれていない現状があるため、経営を圧迫している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原油高騰 ・仕入上昇 ・価格転嫁 ・経営圧迫 	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	<p>催事の成否により、かなり月度の売上が変化する。プロパー売上は厳しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・催事の成否 ・厳しい業況 	時計・眼鏡・光学機械小売業
	<p>包装資材等に原油価格高騰の影響が出始め、値上がりしています。ガソリン代の値上げも配達業務に影響が出てきました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料高騰 ・包装資材値上げ ・ガソリン値上げ 	花、植木小売業
	<p>週末の天候不順や、気温の低い日が続く、春物を中心に売上は良くない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響 ・春物商戦 	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	<p>2月度は1月末より実施した改装工事により月初より18区画の休業があり、売上高・入店客数共に低調な出足となった。 改装休業が各フロアで発生する中、中旬のバレンタイン商戦は昨年を上回る結果となり、売上高は若干盛り返した。 中旬以降、売上高・入店客数ともに低調な推移となり、月末に掛けても厳しい状況が予想される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改装休業 ・バレンタイン商戦 ・厳しい業況 ・売上減少 ・入店客数減少 	各種商品小売業
	<p>古紙含有率表示の乖離問題で、ファイル等の製造品まで飛び火しており、業界はどこに落ち着くのか不明である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古紙配合率問題 	書籍・文房具小売業
	<p>依然としてメーカーの数次にわたる値上げが打ち出されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・値上げ 	塗料卸売業
サービス	<p>宿泊:スポーツ団体の宿泊あり。 宴会:宴会・会議前年並み。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊不変 ・宴会売上不変 	ホテル
	<p>宴会(予約)の減少と居酒屋部門客数減少があり、過去最低の売上になりそうです。対策として、アルコール(ビール)等の値上げ、メニューの見直しを含め「薄利多売」からの転換を考える時期と考えています。 従業員(アルバイト含む)について、入替え時期となり、人材的には不足であるが、売上の的には足りています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・売上減少 ・仕入上昇 ・メニュー見直し ・商法転換 	酒場・ビヤホール
	<p>仕入単価が上昇しています。 食の安全がペットフードにも法案化され、3月にも国会に提出されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入上昇 ・食品問題 	獣医業

【平成20年2月の多い景気キーワード】

◎仕入コストの上昇

- ・ 仕事量は増加。価格の値上がりには比べ工事高の上昇望めず、採算の取れる仕事が少ない。 (建設業)
- ・ 原材料の価格が上昇の一途。民間・公共を問わず、見積もり金額が下り、受注は困難。 (建設業)
- ・ 景気の見通しが不透明になってきているが、原材料の高騰が改善される気配はない。 (製造業)
- ・ 原材料等の価格の高騰はあるものの、内部やユーザーにて吸収で対応。 (製造業)
- ・ SUSや非鉄金属の値上がりは一服したが、鉄材料価格の相当な上昇の懸念があるとの情報があった。 (製造業)
- ・ 今年の冬は例年に比べて、特別寒いわけではないが、使用電力量が増えてきている。灯油価格の急騰もあって、暖房の電化が進んでいるといえる。 (製造業)
- ・ 食品原材料の高騰がこれから大きな問題になってきています。今後もその傾向が続いて、経営にマイナスの影響を与えるでしょう。より付加価値をつける大きな工夫が求められてきます。 (卸小売業)
- ・ 果実・野菜全般に売行き不振。昨今の原油高、食の安全、安心の中で、中国ぎょうざ他、問題が発生し、先行き不安、購買意欲の減退等の影響によって取扱いが減少しています。今後の情勢を見極めて、行動する必要があります。 (卸小売業)
- ・ 文具衣料他については、4月から10～15%の値上げ要請あり、仕入は難しい。 (卸小売業)
- ・ 原油価格高騰により、LPガスも高値が続き、2月価格がピークとなっている状況です。仕入価格のアップ分が全て小売価格に転嫁しきれていない現状があるため、経営を圧迫している。 (卸小売業)
- ・ 包装資材等に原油価格高騰の影響が出始め、値上がりしています。ガソリン代の値上げも配達業務に影響が出てきました。 (卸小売業)
- ・ 仕入単価が上昇しています。 (サービス業)

◎食品問題

- ・ 中国野菜、冷凍食品については、お客様の買い物の仕方に変化が表れています。国内餃子及び手作り餃子に人気シフトしています。 (卸小売業)
- ・ 果実・野菜全般に売行き不振。昨今の原油高、食の安全、安心の中で、中国ぎょうざ他、問題が発生し、先行き不安、購買意欲の減退等の影響によって取扱いが減少しています。今後の情勢を見極めて、行動する必要があります。 (卸小売業)
- ・ 食の安全がペットフードにも法案化され、3月にも国会に提出されます。 (サービス業)

◎天候の影響

- ・ 雪の影響で行程に乱れがあり、手待ちになる期間と集中してしまう期間が出た。 (建設業)
- ・ 今月は寒さと雪の影響を受けました。 (卸小売業)
- ・ 冬物は寒波の影響でほぼ一掃 (卸小売業)
- ・ 週末の天候不順や、気温の低い日が続き、春物を中心に売上は良くない。 (卸小売業)

平成20年2月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲44.4に対し、「CCI-LOBO」が▲47.5で、マイナス幅が3.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、10ポイント以上良い業種は製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業で、10ポイント以上悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.6に対し、「CCI-LOBO」が▲35.4で、マイナス幅が5.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種はサービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲54.3に対し、「CCI-LOBO」が▲44.9で、マイナス幅が9.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、10ポイント以上悪い業種は、卸小売業・サービス業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲60.4に対し、「CCI-LOBO」が▲49.8で、マイナス幅が10.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△12.3に対し、「CCI-LOBO」が▲4.1で、プラス幅が16.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.6に対し、「CCI-LOBO」が▲31.0で、マイナス幅が6.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、10ポイント良い業種は、建設業・製造業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、サービス業。

平成20年2月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較









景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI


業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 44.4	 52.9	 10.5	 61.2	 42.8
CCI LOBO	 47.5	 57.7	 40.3	 49.1	 42.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 29.6	 41.1	 ±0.0	 29.0	 57.1
CCI LOBO	 35.4	 51.9	 20.3	 35.2	 36.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 54.3	 64.7	 31.5	 58.0	 64.2
CCI LOBO	 44.9	 57.7	 40.3	 40.9	 43.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 60.4	 76.4	 52.6	 54.8	 64.2
CCI LOBO	 49.8	 56.3	 59.0	 41.7	 48.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 12.3	 5.8	 21.0	 3.2	 42.8
CCI LOBO	 4.1	 20.3	 2.2	 1.7	 2.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 24.6	 23.5	 5.2	 22.5	 57.1
CCI LOBO	 31.0	 48.7	 25.0	 30.2	 28.9

は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(2月の調査結果のポイント)

調査期間：平成20年2月21日～25日

調査対象：柏市内111事業所及び組合にヒアリング、回答数81

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	20.8	21.4	5.8	40.7	±0.0
10月	22.5	15.3	5.5	40.7	15.3
11月	31.7	23.5	23.8	40.7	35.2
12月	27.8	35.7	±0.0	40.0	31.2
1月	32.9	46.6	20.0	34.4	33.3
2月	44.4	52.9	10.5	61.2	42.8
見通し	29.6	29.4	5.2	41.9	35.7

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iはマイナス四〇台へ転落 調査以来最低数値

一月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じ)は、四四・四(前月水準 三二・九となり、マイナス幅が一・五ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べ、マイナスイ幅が縮小した業種は、製造業 一〇・五同、一〇〇である。マイナスイ幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業 六一・二(同三二・四)、サービス業 四二・八(同三三・三)、建設業 五二・九(同四六・六)であり、特に卸小売業はマイナスイ幅が一・六ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「仕事量は増加価格の値上がりには比べ工事高の上昇望めず、採算の取れる仕事が少ない」「(一般事業)」「大きな変化はなく、依然厳しい状況」「(一般事業)」「今年に入り、特に新築物件が減少しているため、仕事量の受注が減り、見通しも暗い」「(設備事業)といった厳しい声の他、「雪の影響で行程に乱れがあり、手待ちになる期間と集中してしまう期間があった」「(板金事業)との天候の影響による声が寄せられた。

【製造業】では、「ユニットハウスイ出の建築基準法改正の影響は正常化へ」「(建設・建築用金属製鋼製造業)」「原材料等の価格の高騰はあるものの、内部やコーザーにて吸収対応」「(鉄粉製造業)との改善の声が一部寄せられているが、「景気の見通しが不透明になっている。原材料の高騰が改善される気配はない」「(ゴム製造業)」「SUSや非鉄金属の値上がりは一服したが、鉄材料価格の相対的な上昇の懸念がある」との情報があった。(機械・同部製鋼業)といった原材料価格高騰に関する声が多く寄せられている。また、「今年の冬は例年に比べ、使用電力が増えている。灯油価格の急騰もあって、暖房の電化が進んでいる」「(ロボット製造業)といったコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「客数増及びネットスーパー開店に伴い、若干売上増」「(総合スーパー)」「(パレ

ンタイン商戦は昨年を上回る結果となり、売上高は若干盛り返した」「(各種商品小売業)との声も寄せられているが、「メーカーの数次にわたる値上げが打ち出されている」「(塗料卸売業)といった仕入コスト上昇の声や、「各商業施設への分散化が続いている」「(百貨店)」「果実、野菜全般に売行き不振」「(食料卸売業)」「催事の成否により、かなり月度の売上が変化する。プロパー売上は厳しい」「(眼鏡小売業)との厳しい声が多く寄せられている。また、「新学期用品は複数の店舗と比較して、購入に慎重である」「(学生衣料)といった声や、「従業員は不足でも過剰でもないが、質が不適正」「(食品スーパー)といった人材不足の声の他、「古紙含有率表示の乖離問題で、ファイル等の製造品まで飛び火しており、業界はどこに落ち着くのか不明である」「(文房具小売業)といった古紙配合率問題のコメントも寄せられている。

【サービス業】は、「スポーツ団体の宿泊あり。宴会・会議前年並み」「(ホテル)といった声の他、「仕入単価が上昇」「(獣医業)との声や、「宴会(予約)の減少と客数減少があり、過半数最低の売上。対策として、ビール等の値上げ、メニューの見直しを含め、「薄利多売」からの転換の時期と考えている」「(居酒屋)といった厳しい声も寄せられている。

【2月の景気キーワード】仕入コストの上昇

「原材料等の価格の高騰はあるものの、内部やコーザーにて吸収対応」との声も寄せられているが、各業種から、「原材料の価格が上昇の一途。民間・公共を問わず、見積もり金額が下り、受注は困難」「原油価格高騰により、LPガスも高値が続き、一月価格がピークとなっている。仕入価格のアップ分が全て小売価格に転嫁しきれていないため、経営を圧迫している」「包装資材等に原油価格高騰の影響が開始値上がりしている。ガソリン代の値上げも配達業務に影響が出てきた」といった原材料・原油価格高騰の影響の声が多く寄せられた。また、「食品原材料の高騰が大きな問題。より付加価値をつける大きな工夫が求められる」といった課題の声も寄せられた。

食問題

卸小売業からは、「中国野菜冷凍食品については、国内餃子及び手作り餃子に人気が出つつあります」「(総合スーパー)といった声や、「昨今の原油高、食の安全・安心の中で、中国餃子問題が発生し、先行き不安。購買意欲の減退等の影響によって取扱いが減少」「(食料卸売)といった食問題の影響の声が寄せられた。また、「食の安全がペットフードにも法案化され、三回国会で提出される」「(獣医業)といったコメントも寄せられており、各業界を揺るがしている。

天候の影響

「冬物は寒波の影響でほぼ一掃」「(学生衣料)との好調の声の一方、「今月は寒さと雪の影響を受けました」「(食料卸売)」「週末の天候不順や、気温の低い日が続き、春物を中心に売上は良くない」「(各種商品小売業)といった悪影響の声が多く寄せられた。

CCI LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が四四・四に対し、「CCI LOBO」が四七・五でマイナスイ幅が一・一ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、一〇ポイント以上良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業で、一〇ポイント以上悪い業種は、卸小売業。

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：平成20年2月18日～22日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況は大幅に悪化した前月と同水準、仕入単価の高騰によりDIは最悪値を更新

一月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比へス、以下同じ)は大幅に悪化した一月(四七九)から、ほぼ横ばいとなった(四七五これは四年八カ月ぶりの水準)。

産業別の業況DIは、卸売でマイナス幅が拡大し、建設、製造、小売でほぼ横ばい、サービスでは縮小した。

【建設業】「公共工事の減少により、厳しい状況が続いている」(一般工事業)、「建築資材、運搬費用等の値上がりにより、採算が悪化」(一般工事業)といった声があるほか、「建築基準法改正の影響による認可の遅れで、受注件数・売上が大幅に減少」(建築系事業)など、依然として建築確認の遅延による影響の声が寄せられている。

【製造業】「大豆、小麦粉等の値上げが収益を大きく圧迫」(食料品製造業)、「住宅着工件数の大幅減と輸送コスト等の上昇は、家具業界にも大きな影響を及ぼしている」(家具製造業)、「二月、四月と鋼材の値上げ通知がきている」(金属製品製造業)といった窮状を訴え

る声が多く寄せられている。ただし、中には「自動車関連を中心に、受注は順調に推移」(自動車・付属品製造業)など、輸出関連の企業からは好調の声も聞かれる。

【卸売業】「原油価格の高騰により、物流コストが増加」(各種商品卸売業)、「漁獲量の減少、魚価の高騰と厳しい状況が続いている」(農畜産水産物卸売業)、「卸先である飲食店の売上悪化の影響により、採算は厳しい状況」(農畜産水産物卸売業)

【小売業】「高額商品の買い控えなど、消費の低迷により厳しい状況」(百貨店)、「ミセス向けの衣料品が不振」(百貨店)、「大型店との競争に加え、原油価格高騰の影響により消費者の購買意欲が低下し、売上が悪化」(商店街)などの声が寄せられている。また、中国製冷凍餃子問題の影響に関する声も多く寄せられた。「食品の安心・安全への消費者の関心が高く、中国製食品、冷凍食品の売上が減少」(百貨店)、「冷凍食品は二、四割売上減少」(百貨店)など、マイナスの影響を訴える声が多かったものの、中には「国産野菜への移行が目立つ」(百貨店)、「ひき肉や餃子の皮の販売が増えた」といった声も見られた。なお、寒さの影響で「防寒衣料等の衣料品が好

調であった」という声も複数見られる。

【サービス業】「飲料品の値上げが予定されているが、価格転嫁は難しく、採算の悪化となる見込み」(一般飲食店)、「悪天候が続く、消費が低迷」(飲食店)、「来店回数が増減に減少している」(理容業)などの声が寄せられている。

一月のキーワード

更なる悪化への懸念
各業種から業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは「今後も公共工事の減少が予想され、売上の悪化を懸念」(蔵・一般工事業)、「建築資材の更なる値上げが予定されるなど、今後も厳しい状況が続く見込み」(三条・建築系事業)

「四月からメーカーが原材料価格の値上げを予定しており、厳しい状況となる見込み」(西尾・鉄骨材製造業)との声が寄せられている。また、小売サービスからも、「前年同月比の売上が三五%減少。今後は更なる悪化を懸念」(銚子・その他の小売業)、「原材料価格の上昇に伴い料金の改定を検討しているが、来客数・売上の減少が見込まれ厳しい状況」(福山・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの上昇
各業種から原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。製造からは「原料となる大豆の高騰に対し、価格転嫁ができず採算が悪化」(水戸・食料品製造業)、「燃料が史上最高値の水準で上昇しており、今後への影響を懸念」(岡山・耐火物製造業)、「鋼材、燃料価格の大幅な値上がりにより、収益の確保は厳しい状況」(直方・鉄骨材製造業)との声が寄せられている。また、小売サービスからも、「小麦など食料品価格上昇の影響により、売上が悪化」(苫小牧・その他の小売業)、「原油価格の高騰による消費者の先行き不安から、来客数が減少」(境港・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

中国製冷凍食品の影響

中国製冷凍餃子への毒物混入に関する報道や、消費者の不安の増加に伴う悪影響を挙げ、声も寄せられている。小売からは、「冷凍食品の売上が大幅に減少」(会津若松・百貨店)、「中国関連の素材、製品を消費者が敬遠」(白杆・その他の小売業)、「飲食店の国内産野菜への需要が増加し、仕入価格が上昇」(四日市・その他の小売業)といった声が寄せられている。一方、製造からは、「国内産加工食品への需要の増加に

より、受注が上昇傾向」(函館・水産食料品製造業)とのコメントが寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲33.6	▲45.4	▲27.5	▲41.1	▲33.8	▲29.1
10月	▲34.9	▲47.2	▲27.0	▲44.3	▲33.8	▲33.0
11月	▲36.1	▲46.8	▲29.2	▲45.6	▲36.0	▲32.6
12月	▲40.8	▲57.3	▲34.9	▲44.9	▲39.0	▲37.1
1月	▲47.9	▲58.1	▲40.4	▲55.6	▲49.2	▲44.5
2月	47.5	57.7	40.3	57.7	49.1	42.7
見通し	41.6	54.6	38.8	44.3	43.2	33.2

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI